

## 5年 総合的な学習の時間研究授業のまとめ（6月30日）

### 1 単元名及び単元の目標

小単元「カボチャを食べられるまで育てよう」（7/16 本時）

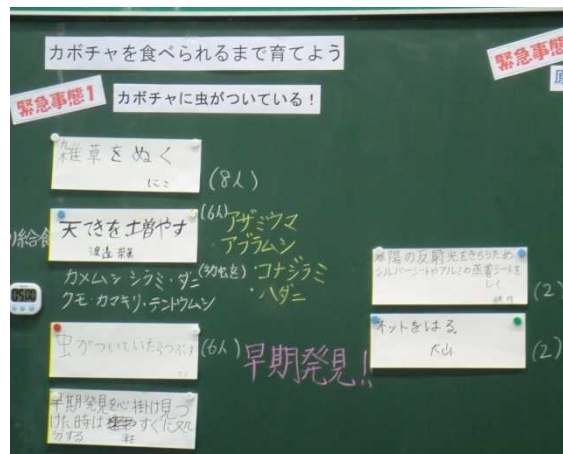
カボチャについて調べたり栽培したりする活動や、農作物の種作りや栽培に関わる方の取り組みを知ることにより、栽培に意欲を持ち、食材の大切さや、栽培・生産に関わる方の思いに気付く。

### 2 本研究授業の提案について

カボチャについて各自調べてきたことを基に、よりよい栽培をする方法について話し合うことで、栽培への意欲を高めようと、以下の提案を行った。

- (1) 自分たちが育てているカボチャに虫が付いたり、カボチャが病気になったりという事態を本時の話合いの題材とした。病虫害に強いカボチャなので水さえ掛ければ大丈夫と考え、進んで畑に足を運ぶことがなくなってきた児童にとって、カボチャに虫が付いている・葉が枯れているというのは観察を怠りがちだっただけに、ショッキングなことであった。原因や対策を調べ実行することが急務となり、意欲的にカボチャの病虫害対策を調べ、本時では課題解決に向け進んで考えを発表したり、友達の意見に反論したりしていた。

- (2) 事前にカボチャの病虫害やその対策を調べ、掲示用紙に自分の良いと思う方法を記入し、それを基に話合いを進めた。（資料1 参照）児童は栽培経験が少なく身近に農家もないので、その場で対策を考えることは難しい。そこで、全体での話合いに向け自分の考えを持つ時間を確保し、短い言葉で掲示カードに記入した。それにより、全員が自分の考えを持って授業に臨み、意見を伝えることができたので、児童は調べたことが本時授業で生かすことができたという満足感を感じていた。話し合った結果、病虫害対策には早期発見早期対処



【資料1 掲示カードを活用した話合い】

が必要ありそのためには植物をよく観察する、植物に向き合い状態に合わせた世話が大切であることが分かり、進んで虫や草を取るようになった。しかし、病気になったカボチャのために何をすれば効果的かという深まりには欠けた話合いになった。話合い後記入したワークシートでは、どの児童も栽培意欲が高まったことは記入しているが、「できることはどんどんしたい。」など、具体的に何をすればよいか判然としていない児童も少なくなかった。本授業の中で、提案した方法ができることか、または効果的かを確認し合う場面を設けることや、「農薬を使うべきか否か。」など話合いの焦点をしぼるなどの工夫が必要だった。

### 3 本研究の授業技術課題について

- (1) 事前に掲示カードに記入していたので、児童の考えを把握し、意図的指名ができ、全員の考えを表出させることができた。掲示カードは、同じ意見の友達と共感する手立てにもなった。
- (2) 話し合う前後の自分の考えを書くワークシートは、児童の変容を見取るのに有効であった。

### 4 次回の研究授業へ向けて

以上のことから、これから次の点を意識した授業を展開したい。

- ・児童が自分の考えの根拠を認識できるようなワークシート（シンキングツール）を活用する。